

R6年度 放課後等デイサービス自己評価 / こだまクラブ

令和7年3月28日

自己評価チェック項目		自己評価
環境体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか。	限られたスペースですが集団活動のスペースを確保。室内での過ごし方の約束を定着できるよう指導し、みんなが過ごしやすい室内になるよう努めました。（発達段階の異なるお子さんが安心して過ごせる工夫）
	② 職員の配置数は適切か	職員は9名。社会福祉士1、保育士3、児童指導員2、その他3名。（うち強度行動障害支援研修修了者3名。）職員とその専門性を紹介してほしい旨のご意見は以前からいただいていますので、モニタリングの機会などを活用してお知らせできるようにしています。
	③ 事業所の設備等についてバリアフリー化の配慮が適切になされているか	車いすは対応できます。手洗いやトイレには混雑する時には職員の交通整理を要します。適切なトイレの使い方と共に居場所づくりを工夫します。
業務改善	④ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に広く職員が参画しているか	子どもの支援については、従来より月1回のサービス担当者会議を開き、目標や評価、気になるところや接し方を共有して支援にあたるようにしています。
	⑤ 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	本年度もアンケートを実施、ご意見を賜りました。本年度のアンケートの結果をこの自己評価に反映させています。
	⑥ この自己評価の結果を事業所の会報やホームページ等で公開しているか	ホームページで公表しています。昨年よりこのアンケート結果にも自己評価を記載してお返しするようにしています。
	⑦ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	保護者アンケートをもって第三者評価とし、業務改善につなげていきます。今年は回収率が低く、意見をいただくためにモニタリング等の機会を通じご意見、要望等の集約に努めることとします。
	⑧ 職員の資質の向上を行うために研修の機会を確保しているか	研修計画をたて資格につながる研修はもとより、それぞれの関心や資格に合った研修に参加できるよう努めました。今後も続けます
適切な支援の提供	⑨ アセスメントを適切に行い子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析したうえで放課後等デイサービス計画を作成しているか。	日々の様子は連絡帳でお伝えしていますが、1ヵ月や半年等の期間でまとめた様子や家族からの要望などでもタイムリーに反映できるよう努めました。今後も、困り感を共有したり家族の要望を聞いたりしていきます。
	⑩ 子どもの適応行動の状況を図るために標準化されたアセスメントツールを使用しているか	インテークにおいて標準的なアセスメントツールを設定し、使用しています。一方で家族の要望や困りごととも支援や評価に反映できるよう努めています。
	⑪ 活動プログラムの立案をチームで行っているか	現場責任者を主に児童発達管理責任者と協議して決定、ご案内しています。協議では発達段階や関心の度合いなどを考慮して活動における個々の目標や留意点などを話し合い、全員で共有できるよう努めました。

適切な支援の提供適切な支援の提供	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	活動内容に変化をつけたり、必要な時には個別対応をしたりするなど柔軟に取り組んでいます。なお、クラブ全体としては様々な活動をしています。ひとりひとりの利用機会は限られており、自分が参加した日以外にどんな活動をしているのかを知ることができるよう工夫をしています。 「個別対応が取り入れてもらえて、ずいぶん子どもが落ち着いてきた。」（ご意見）
	⑬	平日、休日、長期休暇中に応じて課題をきめ細かに設定して支援しているか。	平日は繰り返し取り組みたい活動、休日にはまとまった時間を要する活動を、と組み合わせ計画しました。
	⑭	子どもの状況に応じて個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか。	日課において集団療育と個別の取り組みを設定しています。ひとり一人の課題の支援の他、小集団での遊びや音楽、工作など楽しい活動になるよう働きかけています。また、ご要望があればご意向をうかがってまいります。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか。	支援開始前に毎回ミーティングを行い、活動のねらいや職員の分担など確認することとしています。
	⑯	支援終了後には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い気づいた点等を共有しているか。	支援終了後は別れて送りに出るので、翌日のミーティングで支援内容の反省や子どもの様子などを共有し次の支援につなげていくようにしています。
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	連絡帳に記載した内容や、目標にてらしてできたことや課題などを記録しています。
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか。	およそ半年に1回を目安にモニタリングを行い、その内容はできるだけ直接会って伝え、また家族の期待や困り感を共有し支援に反映できるようにしています。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っているか。	季節感のある活動や行事、友だち同士の協働や社会性の向上、社会参加の体験等とひとりひとりの活動を組み合わせて支援しています。
	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしいものが参画しているか。	最もふさわしい職員が参画しています。
	㉑	学校との情報共有（年間計画、行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	学校へのお迎え時の情報交換など情報の共有に努めると共にケース会議などの機会には積極的に参加することとしています。
	㉒	医療ケアが必要な子どもを受け入れる場合は子どもの主治医等と連絡体制を整えているか。	
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	相談支援専門員を通じて発達段階や家族の要望などを知るようにしています。また、引き継ぐときはサービス担当者会議、ケース会議などに参加、情報共有と相互理解に努めています。

適切な支援の提供適切な支援の提供	②4	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	進路相談や進路先との連絡調整、支援内容等情報の提供を行うなどしています。また、5年度卒業の方のうち4名の方について情報提供したり相談に応じたりしています。過年度卒業の方も継続してアフターフォローに努めています。今年度卒業予定の方にも情報提供していきます。
	②5	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等との専門機関と連携し、助言や研修を受けているか。	必要に応じて児童相談所と情報共有したり助言を受けたりしています。また、相談支援専門員を通じて情報や助言を受けています。また、総合支援協議会で事例報告を準備する等ネットワークの構成機関から助言や情報を受けるよう努めました。
	②6	放課後児童クラブや児童館との交流や障害のない子どもと活動する機会があるか。	過去には社会貢献活動（乗馬体験等）に参画してきました。新たに機会があれば参画したいと考えています。6年度はイネ作り体験のようすを、今後の交流の足掛かりにしたいと考え、写真等で地域の中学校や小学校と共有しました。
	②7	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	玉野市総合支援協議会の子ども部会に参加しています。
	②8	日ごろから子どもの状況を保護者に伝えあい、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	必要に応じて面談し、成果や課題の共有に努めています。ふだんは連絡帳でようすをお知らせしていますが、送りの時にも直接お話できるよう努めています。その際、ご指摘があったこと（スタッフによって差異がある）をふまえて、成果や課題など簡潔で前向きな伝達になるよう、事例を踏まえてコミュニケーション力の向上に努め、その日のようすはどのスタッフが送っていてもわかりやすくお話しできるよう努めます。
保護者への説明責任等	②9	保護者の対応力を図る観点から、保護者に対してペアレントトレーニング等の支援を行っているか。	家族の困り感に寄り添ってお話を聞いたり、助言をしたりしています。ペアレントトレーニングの支援は現段階ではできておらず、複数の家族支援の機会はもてませんでした。卒業生を祝う会では家族にも参加いただいて新しい進路先が充実できるよう助言するなどしています。
	③0	運営規程、支援の内容、利用者負担等についていねいな説明を行っているか。	支援内容は連絡帳やモニタリングの説明などで行っています。その日のようすはどのスタッフが送っていてもわかりやすくお話しできるよう努めます。利用者負担は利用開始時や変更があった時などに重要事項説明書を使って行っています。
	③1	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	必要に応じて家族とのふだんのやりとりの中で課題を汲み、助言できるようにしています。サービス担当者会議に積極的に参画したほか、相談支援専門員を通じ関係機関に情報提供し必要な支援につなげた例もありました。
	③2	父母の会の活動を支援したり保護者会等を開催したりする等により、保護者同士の連携を支援しているか。	6年度は保護者が集まる機会が十分持てませんでした。7年度は法人の行事を活用するなどして家族の交流の機会を持ちたいと思っています。
	③3	子どもや保護者からの苦情について対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	苦情の申し出は重要事項説明書に記載し、わかりやすく説明しています。もし苦情の申し出があった時は法人本部と連絡し、迅速に対応することとしており、その際申し出者には「苦情は宝」という認識で対応します。要望等の申出がありました。 活動に伴う服装の準備をしていたのにきがえをさせてなかった、との申出がありました。連絡不足による声かけが不足していた旨の謝罪をし、受けいただきました。

保護者への説明責任等	③4	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	自己評価はこのアンケートの結果を基に職員で話し合い、法人のホームページに載せています。 活動の概要は毎月のプログラムでお知らせしています。 季節に1回程度の会報が出せたらと思っていますが、現状ではプログラムの余白にお知らせを載せています。
	③5	個人情報に十分注意しているか。	個人情報の扱いは新規契約時に文書で説明、適切に扱わせていただいています。写真等の可否は文書で回答をいただいています。実際の使用場面ではいけない確認をしています。
	③6	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	連絡帳と送迎時の情報交換で意思疎通を図っておりますが、他の項目で指摘があった通り、一層の改善と共通認識のもと取り組んでいきます。 スタッフによって出来不出来があるとのこと指摘をいただきました。（複数回答ありました） その日どう過ごせたかをひとことお知らせするなどの声かけを徹底してまいります。
	③7	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を行っているか。	法人行事として地域の方と一緒に過ごす機会を予定していましたが、コロナ対策のために自粛していましたが、6年度以降は法人の他事業所と共に地域に開かれた活動として参加する予定です。
非常時等の対応	③8	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知しているか。	各種マニュアルは策定していますが、日常の研修や訓練を通じて周知を図ります。内容は契約時の説明で重要事項説明書にそって説明を行っています。 また、警報発令時など必要な時には必要な方に対して対応をあらかじめ発信してきました。今後もより分かりやすい発信の仕方を工夫します。
	③9	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他の必要な訓練を行っているか。	月に1回避難訓練を行いました。実施曜日もその都度変えていますが契約しているすべての子が参加するとは限りません。職員がどのように子どもを誘導できるかを意識しながら、行動の仕方が分かるよう練習していきます。
	④0	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等適切な対応をしているか。	虐待防止のセルフチェックに取り組んだり、オンライン研修を全員が受講したほか、拠点内の虐待防止委員会に参加しました。また、虐待防止責任者を選定し、不適切な対応があれば小さなうちに取り除けるよう日常的に話し合いを持っています。
	④1	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分説明し了解を得たうえで放課後等デイサービスの支援計画に記載しているか。	緊急やむを得ない場合の三原則を支援計画に記載しており、やむを得ない場合以外は身体拘束は行わないこととしています。一方危険防止のためにやむなく行った場合は記録し、家族に報告しています。いずれもガイドラインを策定し、その内容に沿って取り組んでいます。
	④2	食物アレルギーのある子どもについて医師の指示書に基づく対応がされているか。	現利用者では該当する方がいませんが、インテークの際には必ずアレルギーの有無をお尋ねしており、支援が必要な場合には支援計画に記載することとしております。
	④3	ヒヤリハットの事例集を作成し事業所内で共有しているか。	ヒヤリハットの報告書を作成し、いつでも閲覧できるようにしています。家族、関係機関と情報共有し支援の見直し等の際の判断の根拠にしています。

